

平成 20 年 5 月 8 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中齋塾 東京フォーラム

### 平成 20 年 第 5 回講話

先月 24 日から 5 月 1 日までブータンに行って参りました。非常に良かったです。笑顔が行く先々で満ち溢れていました。先にブータンの印象を少しお話しします。

死んだ後、必ず生まれ変わるという事を信じている方々ばかりでした。これには驚きました。

物質文明、特にテレビが入ってくると、よそ様の生活を紹介します。これでどんどん汚染されてきます。以前でしたら、人から聞かれると「今幸せです。食べるものにも着るものにも不自由しない。一家団欒で親子の間柄も良い。色々な話も沢山できる。そういう関係があるから、何も不平不満はない。良い暮らしです・・・」と答える人々が多かったようです。ところが最近テレビが入ってきたので、他の国の生活ぶり、例えば車に乗っていたり、欲しいと思うものを紹介していたりするので、あれが欲しい・これが欲しいという欲求が段々増えてきて、家庭が少しずつ壊れかけてきています。だんだん小波が立ちつつある時代、ちょうど汚染が始まりつつある時期だと感じました。

特に印象に残った事は、ブータンの人は素直で実に心が豊かだと感じました。江戸期に日本へやって来た外国人の宣教師が本国に連絡する際「日本の国の人々は素晴らしい。礼儀正しく笑顔が良い。清潔で折り目正しい。我国の人と比べても日本の方が素晴らしい」と報告していたと云いますが、私は今ひとつ理解できませんでした。しかしブータンに行って、納得できました。江戸時代の末の日本国民も、こういうものだったのではないかと実感させられる事が随所にありました。その意味で本当に行って良かったと思いました。

しかし残念な事に、その心がどんどん汚染されつつあります。昔、大宅壮一さんが「一億総白痴化」と言ったテレビの出現により、人さまの生活を垣間見て、自分も自分も・・・という心になったのだと思います。

ですから「足るを知る心」とは、人様と比較をしない心なのです。自分の心の中で、家族団らんの中で生まれて来ていると実感させられました。

では中齋塾フォーラム恒例でございます、嘘をついたかどうかお聞きします。

「昨日一日、嘘をつかなかったと胸を張って手を挙げられる方はおられますか」

(・・・多数手が挙がる。)

嘘も、相手の為になる爽やかな嘘はよいと思います。

私は旅行中も毎晩、自問自答しました。

「今日は嘘をつかなかったかな？」

「今日は満足できたかな？良い一日だったかな？」

「“有難う”と誰に対して言ったかな？」

最近はそれに加えて「私が言った“有難う”に対して、相手はきちんと聞いてくれたかな？」尚且つ「人さまから何か“有難う”と言われたかな？」・・・と、考えがだんだん広がってきています。

そしてもう一つ「今日は運動したかな？」と考えます。もし運動が足りなければ、寝たまま深呼吸をしています。肺活量の運動です。以前、橋本聖子さんの話を聞いた時に、「私の肺活量は、同年代の女性の半分くらいしかないのです」と言っておられました。小さい時からの疾患でそうなったらしいのですが、それなりのイメージトレーニングをして、肺活量を最大限に活用して、素晴らしい記録を出した。これが頭に残っていて、せめて肺活量を、と頑張ってやっています。

最後は「明日は良い事があるかな？」と思って寝ます。昨晚もそう考えて眠りました。

では、もう一つ皆さんにお聞きします。

昨晚寝る時に「今日は一日良かったな。満足したと思って眠った方、どれくらいおられますか？」

・・・ちょっと少ないですね。

良かったと思うものがなかったら、無理やり探して下さい。必ず何かあります。中斎塾北関東フォーラムの代表幹事が好きな「よく見ればなすな花咲く垣根かな」という心持ちで、今日一日満足することがなかったと簡単に決めつけしないで、例えばご飯が美味しかったとか、話をした人が良い笑顔だったなと思うだけでも、幸せの種は広がっています。腹の立つことがあってもそれを忘れて、良かったと思える事を拡大解釈してお休みになるとよいでしょう。

もう一つお聞きします。

「先週一週間、目先の欲につられて行動してしまったと反省しておられる方はいらっしゃいますか」

・・・一人もいません。素晴らしいですね。

この中斎塾フォーラムでお話しをして結果として残るものは、自分自身の判断基準です。色々な問題が世の中多いですし、自分が行動する時に“さて、どうしようか”と戸惑う人が沢山おられますから、判断基準を身に付けたと思って戴ければ大したものです。

本日の心に残る言葉に参ります。

金子みすゞさんの詩をご紹介します。

**人はお墓へはいります。暗いさみしいあの墓へ。**

**そしていい子は翅が生え、天使になって飛べるのよ。**

『金子みすゞ童謡集』角川春樹事務所

「いい子は翅が生え」の部分がいいですね。皆さんはご自分でいい子だと思われますか。自分で自分を褒めましょう。この詩はいろいろな意味が込められています。自分で自分を褒めてあげる。自分の行動を肯定する。そしてそれを人さまに広げていく。この詩の中には足るを知る心、仏教の真髓のようなものが入っていると感じます。

仏教の真髓ということで、ブータンに関係した話を申します。このお話しは9月27日に出版する予定の『陽明学のすすめ 安岡正篤「六中観」』の「壺中天有り」にあたります。ブータンはまさに「壺中天有り」の「壺」であると理解しています。

ブータンで驚いた事を申します。行く前に資料を読みましたら、トイレトペーパーや歯ブラシ、スリッパ、寝巻き等々を持って行くように書いてありまして、用意して行きました。又、停電することがあるという事で、懐中電灯も用意して行きました。案の定、食事をしている時に停電になりまして、腰に下げていた懐中電灯をすぐに点ける事ができました。泊まったホテルには全部、蝋燭が置いてありました。シャワーはお湯がすぐ水になってしまいます。ブータンの人はお風呂にはいる習慣がないと聞きました。川で水浴びはするそうです。ホテルのシャワーはタンクの水を電熱器で温めているので、そのタンクがなくなればお終いなのです。最初に泊まったホテルは、首都ティンブーで唯一エレベーターのあるホテルという事で、宿泊地に選ばれたそうです。途中、昼食に入ったレストランは、その町で唯一クーラーがある店でした。ですから自分の思っている常識は、ブータンでは通用しません。

食事はアスパラガスやぜんまいが山盛りで沢山ありました。でも美味しかったです。西岡京治さんという日本人が農業の技術指導を28年間されたそうで、そのお陰だそうです。その方は貴族の称号を国王から戴いているという話でした。「日本人のお陰で・・・」と

という言葉が至る所で聞かれました。非常に親日的です。

ブータンの人は言葉は通じませんが、日本人と同じような顔をしています。ブータンの人達は民族衣装を着ることを義務付けられています。お祭りや公式の行事の際には、民族衣装を着ていないと逮捕されるのだそうです。初犯は罰金程度ですが、2回目は一週間刑務所に入り、3回目は1ヶ月間刑務所に放り込まれると聞きました。警察の人も、日本人がいると見分けがつかないので困るそうです。せかせか歩くのは日本人で、ゆったり歩くのはブータン人だと見分けるそうです。

民家の壁には至る所に絵が書いてありました。新しい家を作った時には、必ず壁にブータンの絵を書かねばならない法律があるそうです。獅子の絵やガルダの絵、龍の絵、牛の絵など、ブータンの独特の模様の家が軒並みありました。

ブータンの文化を守る為に、国王は必死であると感じます。ブータンの宗教心・文化といったものを維持する為に、並々ならぬ努力をしていると感じました。

私がブータンに行った理由は三つあります。

一つは、ブータンの人達は仏教を国教にしていますが、それが日常生活にどう溶け込んでいるかを見たいと思いました。

二つ目は、GNH（国民総幸福量）という言葉があります。世界の国々はGNPで国力（稼ぎ高）を発表しています。ブータンの国王はGNH（数字でいくらお金を儲けたかではなく、幸せだと思った人々がどれくらいいるかによってその国のレベルを図るべきだ）という主張をし、世界各国に向かって発信したわけです。それがどの程度、国の中に根付いているのかを知りたいと思いました。

三つ目は、ブータンはヒマラヤ山脈の麓にありますから、温暖化現象によって上の方の氷河湖が解けて、その水がブータン国土に襲いかかる。結果としてブータンが沈むと聞いていましたから、それを確かめようと思いました。

この三つの目的で動いたわけです。最終的にはそれぞれ知りたい事が自分なりに分かりまして、満足致しました。

一つ目の仏教の問題について感じた事を申します。

ブータンは「壺中天有り」の「壺」だと申しました。人間の気持ちを癒してくれる、人間らしい生き方を自分はしているかどうか見直しをするという考え方で「壺」を見ますと、まさにブータンという国は現実に幸せだと思っている人達が溢れている国でした。その根っこは、宗教の影響が実に大きいと感じます。比較的文明にどっぷり浸かっている国民の

方が幸せ感が少なく、いわゆる原住民で土着の生活をしている人の方が幸せそうな気がします。

ブータンでは、死んだ後に生まれ変わるという思想が本当に根付いていました。結婚相手を判断する時に一番肝心な条件は、その家に仏間や仏壇があるかどうか、その仏壇がどれだけ大切にされているかだそうです。結婚する時に、仏壇を大事にしている人を選ぶということでした。朝に仏壇に手を合わせ、昼も手を合わせ、夜も手を合わせる。何かある時の判断基準として、先祖を敬い、<すべて仏様の御心のもと>という考えが根付いていました。そして死んだ後は、その御仏の元に帰って、次に生まれ変わるのだという考え方です。亡くなると土葬され土に返り、その土が雨が降って流されて川になり、川から雲に上って、雨になって地上に降って草葉に降る。その草を山羊が食べると、山羊がその人の生まれ変わりになり、その山羊がライオンに食べられると、今度はそのライオンが生まれ変わりとされるわけです。口から口へ、食べたものに魂が宿って回っているという考え方でした。ですから、やたらに腕に止まった蚊を殺しても嫌な顔をされます。我々日本人は、何となく又、人間に生まれ変わるのが当たり前だと思っていますが、ブータンでは違っていました。宗教心というものが、日常生活にごく自然と根付いていました。

又、ブータンでは宗教と政治・行政とが一体化していました。ブータン仏教の総本山のある場所に行きましたら、そこには国王のオフィスがありました。国会のような場所を覗かせて貰いましたら、国王の机と大僧正の机が並んでいました。完全に行政と宗教が一致をしている国体でした。しかし今回、選挙で民主主義を導入することになり、第5代の国王が生まれて、近々戴冠式があるという話でした。なぜ国王がいて立憲君主制でやっているのに民主主義を導入するのか、不思議に思って話を聞いてみました。ブータンの人はあまり働かなくても食べさせて貰えるような国体なので、もう少し国民に積極的に働いて貰おうという狙いが根っこにあると受け取りました。

二つ目のGNH（国民総幸福量）の問題に関して、私なりに確認した事を申します。

国民が幸せだと実感しているのは、他人と比較しないで、自分達の宗教心を心の底から信じているからです。信ずる心と他人と比較しない心が本当にある国だと感じました。国民総幸福量を数値化する努力を、今現在している最中だと聞きました。

三つ目の温暖化の問題について感じたことを申します。

ブータンには谷底が至る所に沢山ありました。日本で言うと、お城と城下町が一体化しているようなところをゾンと言います。プナカ・ゾンという所では氷河湖が決壊し、水が

押し寄せてお城が半分くらいまで浸水してしまい、住民の方が亡くなられて相当な被害を受けたそうです。そこを見て来ました。私はブータンの国全部が沈むような話を聞いていましたが、これは間違いだと思いました。住民の方が亡くなるといっても、生き残る人が沢山いるのではないかと感じました。それに谷底にどんどん氷河湖の水が流れていくのです。ですから、日本の火山が爆発しても日本全部や全国民がなくなるという事はないのと同じで、氷河湖が決壊しても、いくつかの村や町が被害を被るだけで、国全部がなくならないと実感しました。ですからこれについては、それなりの対策をそれぞれの地域の人が行っていると感じられたので、ホッとしました。

仏教の問題・国民総幸福量の問題・温暖化の問題について、それぞれ納得できました。それを日本に当てはめて、「壺中天有り」の「壺」で考えた時には、ブータンの人は人と比較をしない。したがってどの人も先ほどの金子みすゞの詩のように、翅がはえて飛べる人ばかりだと感じました。

では、本日のテーマに参ります。

本日のテーマは、温故知新師です。「古きを温（たず）ねて新しきを知る。以て師たるべし」という読み方と、「古きを温（あたた）めて・・・」という読み方があります。斯文会の訓点論語では「あたためて」と読みます。これはリーダーの条件です。人さまの上に立って仕事をする、或いは大黒柱となる場合には、歴史に学んで昔の事を色々と調べ、その結果自分の心の中に入ったら、親鳥が卵を孵すように温めて自分なりのものに解釈して世の中に出していく。そうしなければ、ニューリーダーとして世の中を引っ張っていく資格はないと捉えて下さい。

師とはリーダーです。日本の国で考えれば、はたして福田首相は師足り得るか否か・・・と考えて、この言葉を味わうとよいでしょう。福田首相を自分なりに判断できたら、次は自分が関係している組織の中で、リーダーはリーダー足り得るかどうかを考えるとよい。家庭の場合で、大黒柱の人間はリーダーとなり得るかどうか見ればよいし、最後に自分自身を見ればよいでしょう。

福田首相が昨年末に曲阜を訪問した際に、「温故知創」と書いたと報道されています。そして今、せっかく胡錦濤さんが日本に来られたのですから、どんどん日中問題を詰めれば良いものを、パンダを借りる事が成果というのでは、悲しくなりました。リーダーたる者は「民は由らしむ可し。之を知らしむ可からず」で、一国の首相が自分の政治生命をかけて何かを断行しようとする時に、やらんとする意味が分からなければ、一所懸命になっ

で説明しなければならぬ。説明しても分かってくれない、残念だ、悲しいという気持ちが「民は由らしむ可し。之を知らしむ可からず」に入っています。

「民は由らしむ可し」・・・国民は首相の後姿を見て、その後を付いていく。何をやるうとしているか分からないけれども、あの人の言う事なら間違いないだろうから応援する。

「知らしむ可からず」・・・一所懸命知らしめようと努力するけれども、国民の間には一向に伝わらない。知らしめる事ができないのは何と悲しい事か・・・という意味です。残念ながら福田首相には、そういう臭いを一向に感じません。

日本の国はどんどん悪くなっています。根っこが腐っていると思います。王陽明に抜本塞源論があります。腐ったら、元を調べて根っこを正さなければ良くなりません。日本の国の籠が狂ってしまったのだと思います。日本の政治が狂ったし、教育が狂ったし、国民が拝金主義に毒されています。ならば気が付いた人が気が付いた所、まず身の回りのものを直すべきだろうと思います。自分がいる組織がおかしいと思ったら、おかしいと言えば良いのです。それが通らなければ、通るような動きをしてしかるべきだと思います。

私は33年前に会社を創った時に、「会社は潰れて当たり前です。それには兆候が出ます。社長が危ないと思ったら、すぐに辞めてもらって結構です」と社員に言いました。会社が潰れるか発展するかは社長の力量次第です。

会社が潰れる兆候は三つです。

社長が分不相応な事をした時・・・当時は外車に乗り回していると格好良く見えましたから、「私が外車を乗り回したら危ないと思って結構だ」と言いました。

社長が三日間連絡がとれない時・・・私は若い頃によく蒸発していましたから、自戒の意味を込めて言いました。

社長が二号さんを困った時・・・人間として判断基準を持っていたら、感情に溺れてはいけません。

自分の判断基準を持っていると、刹那の衝動で動きたいと思った時に、<待てよ>が出ます。これが出れば、しめたものです。私は頭が真っ白になった時に、「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉が浮かびます。そうすると目先の衝動で何か悪さをしないで済む。

この中斎塾フォーラムの中では、判断基準を身に付けて戴く事が肝要です。その結果として良いとなったら、それを他の方にも勧めて戴き、それが東京で広がり、北関東で広が

り、日本全国に広がって行って、やがて世界へ話を広げて行くようにしたいと思っています。そういう動きの中で、先ほど話が出ましたミャンマーへの支援等も素晴らしいと思います。我々が力を持っているのであれば、その力を人さまのために使おうではないかという、具体的な動きになる事が欲しいと思っています。

それは自動的に「温故知新師」の「師」つまりリーダーの条件になると思っています。是非皆様も自分で良いなと思う判断基準を見つけて、他の方にもお話しをして戴きたい。お話しをすると、それが自分自身のものになります。

以上で本日の東京フォーラムを終了させて戴きます。

有難うございました。